



# イーレックス株式会社 [9517]

2016年9月29日開催

個人投資家向け説明会資料

～「未来を切り拓く『共創』エネルギー企業」を目指して～

# 本日お伝えしたいこと

---

1. 当社は電力市場で2000年より電力事業を専業としている新電力のパイオニアです
2. 当社の特徴は以下の2つです
  - ①「代理店による強力な営業網」
  - ②「FIT制度活用の自社再生可能エネルギー発電所」
3. この2つの特徴を武器に過去3年間着実な財務実績を築いてきました
4. 本年5月に従来の中期経営計画（Challenge 500）を上方修正し、新たに売上高1,000億円、営業利益率10%とした新中期経営計画『DASH 1000』を発表しました
5. 新中期経営計画初年度である今年の第1四半期は好調なスタートとなり、これは中期計画達成に向けて着実に進捗している証です

# 目次

---

I	会社概要	・ ・ ・ 3
II	市場概要	・ ・ ・ 7
III	中期経営計画	・ ・ ・ 10
IV	第1四半期決算概要	・ ・ ・ 28
V	参考資料	・ ・ ・ 32

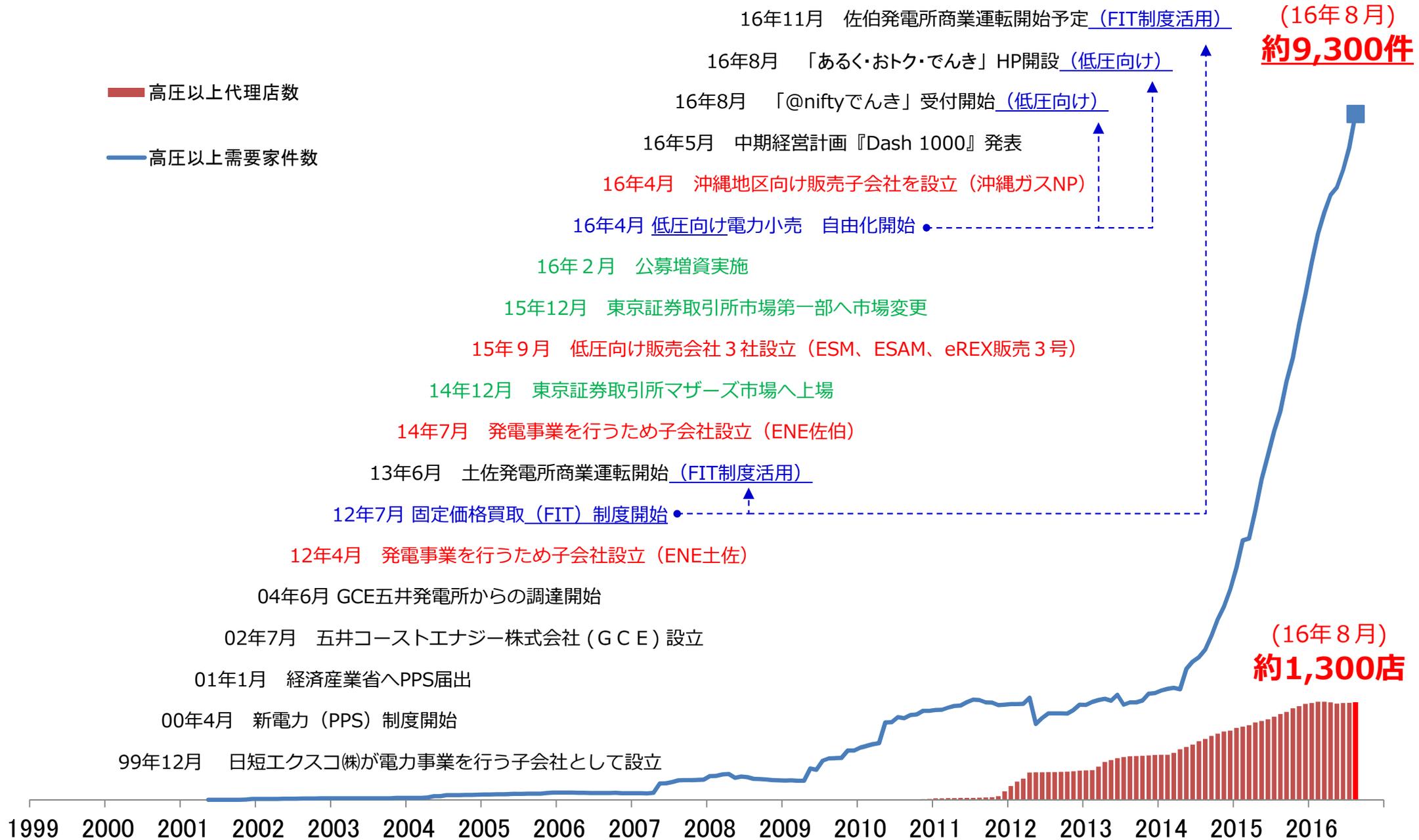
---

# I . 会社概要

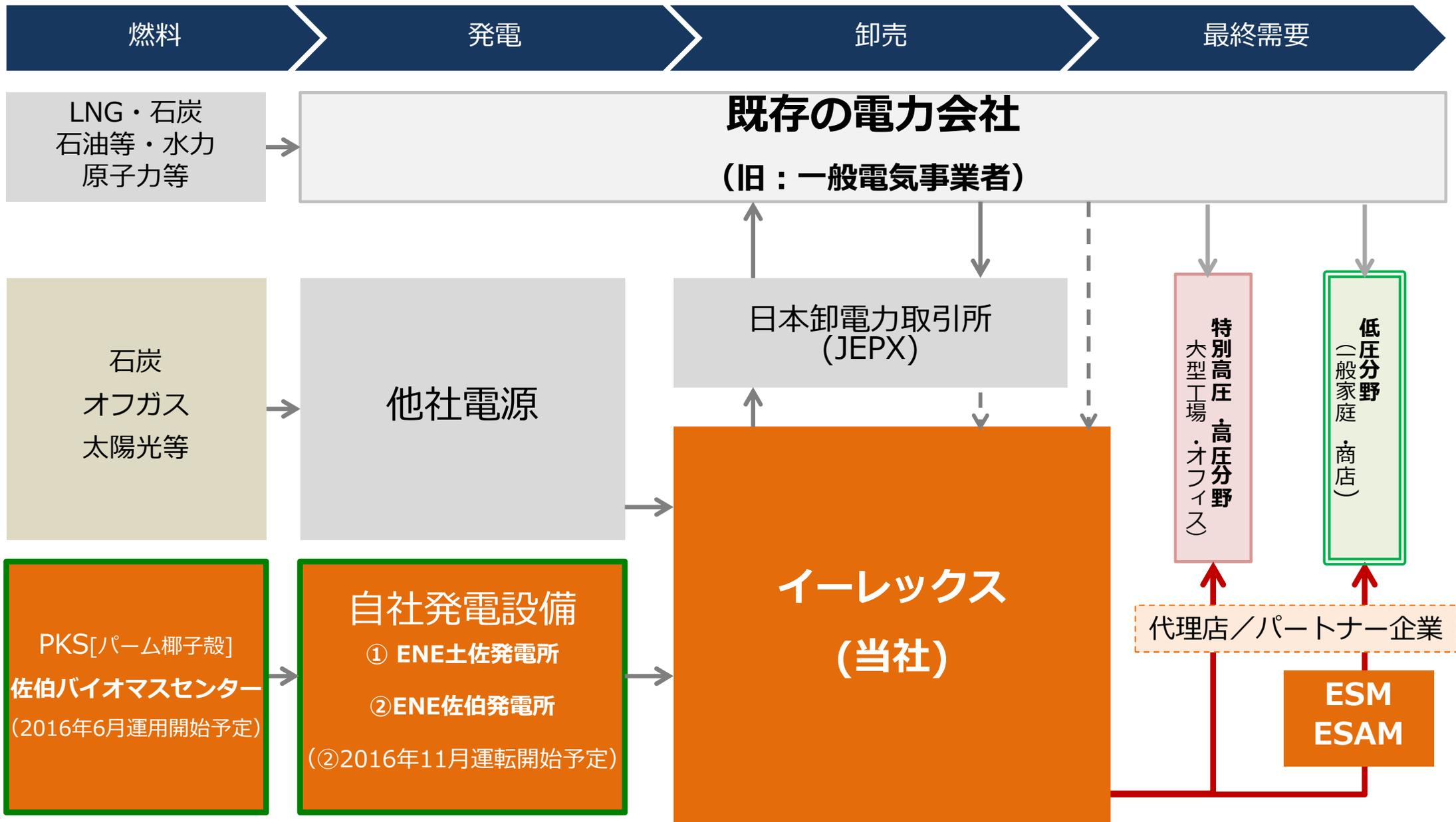
# 会社概要

本社	東京都中央区日本橋本石町三丁目3番14号
事業内容	電気事業（発電・電力小売・電力卸売）
代表者	代表取締役社長 本名 均
設立	1999年12月
資本金	5,041百万円（2016年6月30日現在）
連結子会社	イーレックスニューエナジー株式会社、イーレックスニューエナジー佐伯株式会社、佐伯バイオマスセンター株式会社、イーレックス販売3号株式会社、イーレックス・スパーク・マーケティング株式会社（ESM）、イーレックス・スパーク・エリアマーケティング株式会社（ESAM）、株式会社沖縄ガスニューパワー、（2016年6月30日現在、計7社）
従業員数	連結：79名 / 単体：47名（2016年6月30日現在）
ビジョン	未来を切り拓く『共創』エネルギー企業

# 会社沿革



# 当社を取り巻く電力の流れ



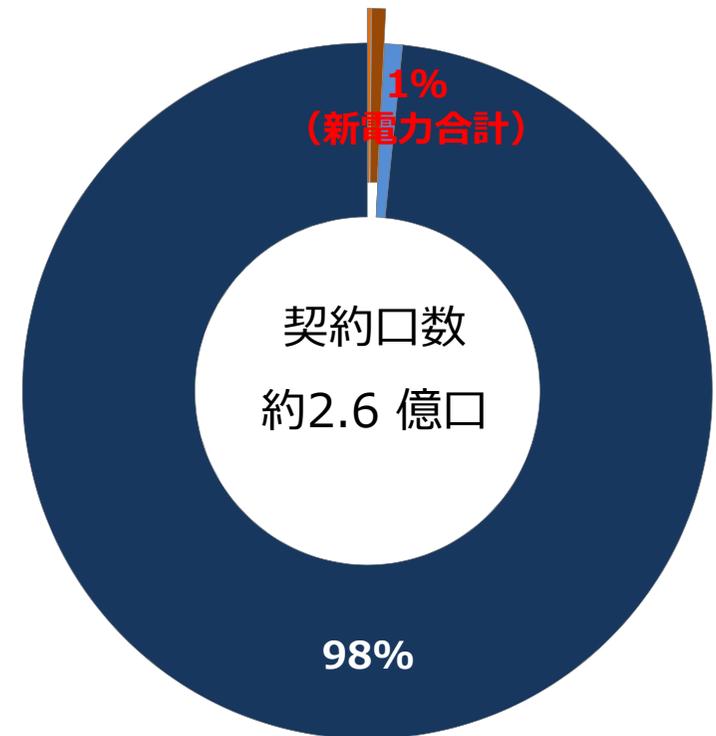
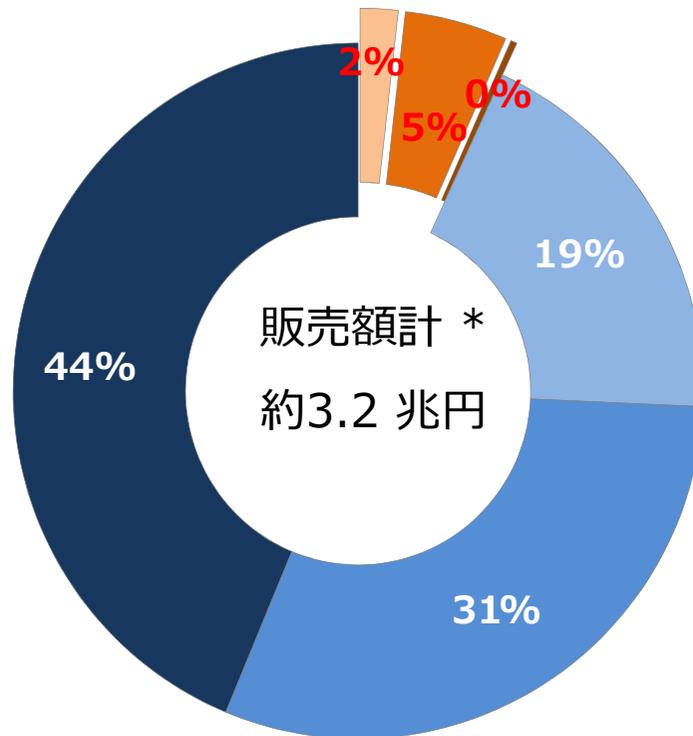
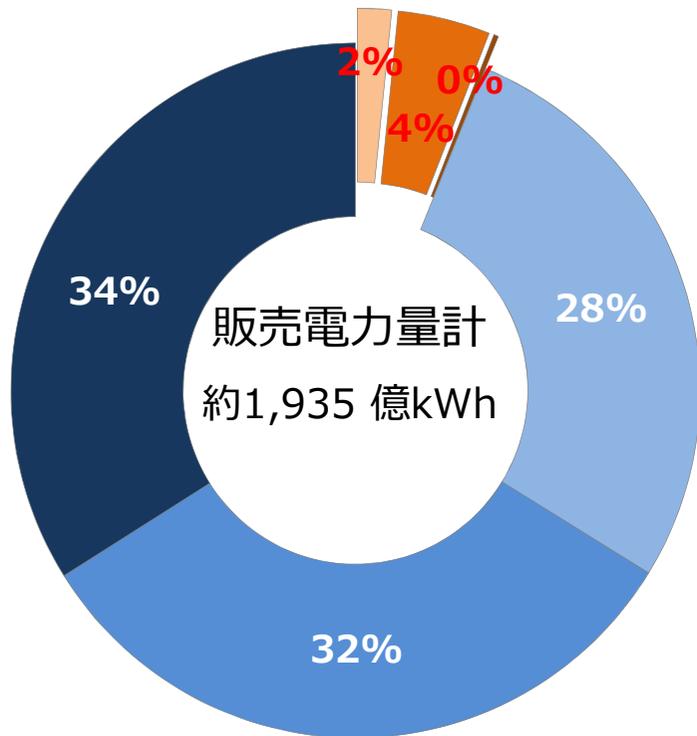
(注1) PPS: Power Producer and Supplier

(注2) ... 主要な電力の流れ ... 補助的な電力の流れ

---

## II. 市場概要

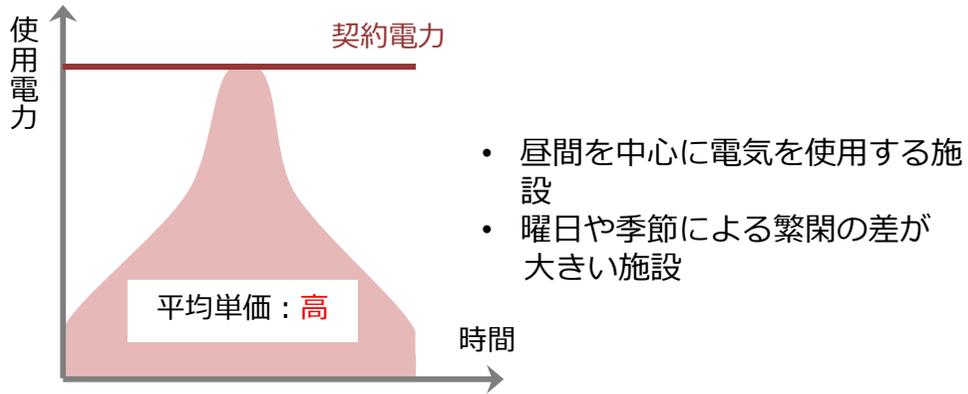
# 電力市場規模の概要（2016年4月～6月計）



- 新電力が開拓したシェアは販売電力量比で約6%、販売額比で約7%、契約口数比では1%に留まる
- 販売電力量/販売額/契約口数のいずれにおいても、**未開拓の大きな市場**が存在している
- 2016年3月期の既存電力10社の小売売上高合計は約16兆円
- 当社『Dash 1000』で目標とする**売上高1,000億円は電力小売市場全体の0.6%に相当**

# 特別高圧・高圧分野の施設例

## 平均単価の高い施設例



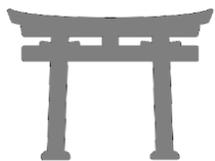
中小事務所ビル



病院  
(入院設備無し)



学校



寺院仏閣

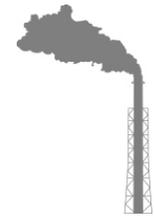
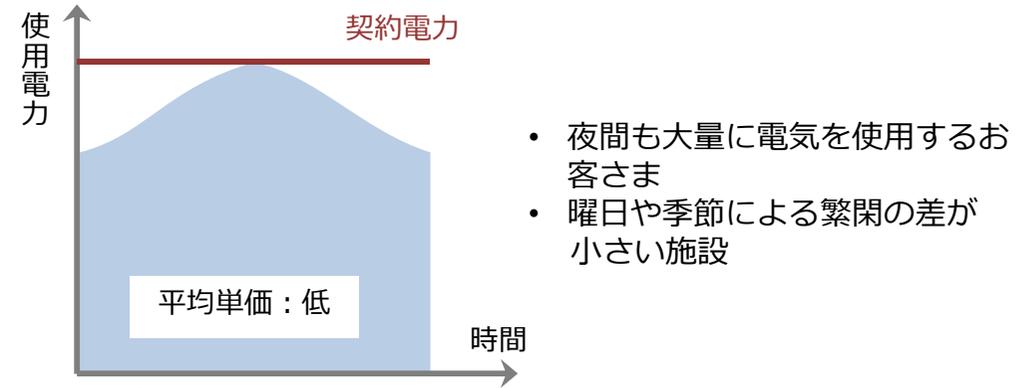


公園  
(指定管理施設)



結婚式場・教会

## 平均単価の低い施設例



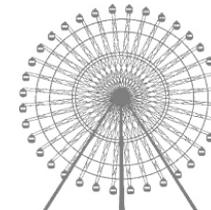
操業時間が  
比較的長い工場



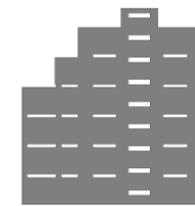
超高層ビル



病院  
(入院設備有り)



アミューズメント施設



マンション  
共用部分

---

## Ⅲ. 中期経営計画

# 未来をデザイン with eREX

イーレックスは、発電から販売までを一貫して行う、独立系新電力会社です。  
1000社を越えるパートナー企業と共創しながら、  
新しい電気の仕組みを創り続けてきました。

わたしたちには、創業以来続く「挑む文化」があります。  
国内初となる、ヤシ殻を主燃料とした環境にやさしいバイオマス発電や、  
米国の電力小売先進企業との合併会社設立を、業界に先駆けて実現しました。  
さらに、需要・供給と価格の最適化を実現するトレーディング事業など、  
これからも、皆さまの安心と信頼をベースに、革新的なサービスを生み出します。

未来を生きるすべての人のために、  
これまでにない新しい電気を仲間と共に創る。

未来をデザイン with eREX

# 中期経営計画(Dash 1000)の概要

---

## ■ 基本方針

---

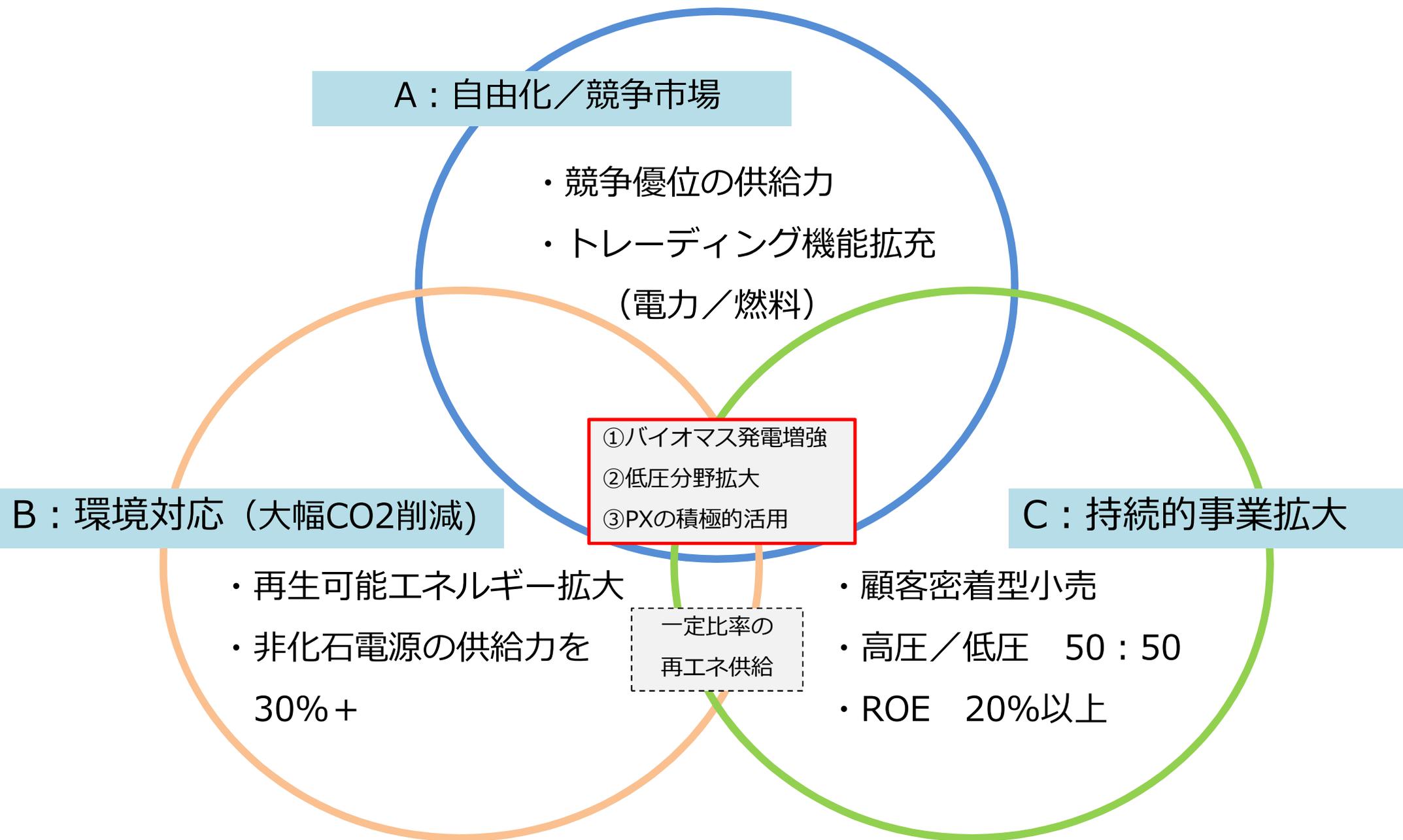
- ・ 電力全面自由化の区切りである2020年の発送電分離が行われるまでに、再生可能エネルギーと小売事業の拡大を基本に、これまでの準備と計画を踏まえ堅実かつ飛躍的な成長・拡大を図る。
- ・ 確固たる事業基盤を構築し、売上高1000億円以上を長期目標とする。

## ■ 経営目標

---

- ・ 売上高目標 . . . . 4年～5年後の売上高 **1000億円**
- ・ 収益目標 . . . . 売上高営業利益率 **10.0%**
- ・ 財務目標 . . . . R O E（自己資本利益率） **20.0%**
- ・ 配当目標 . . . . 配当性向 **20.0%**

# 中長期の経営目標



# 中期経営計画 (1)

## 「Dash 1000」

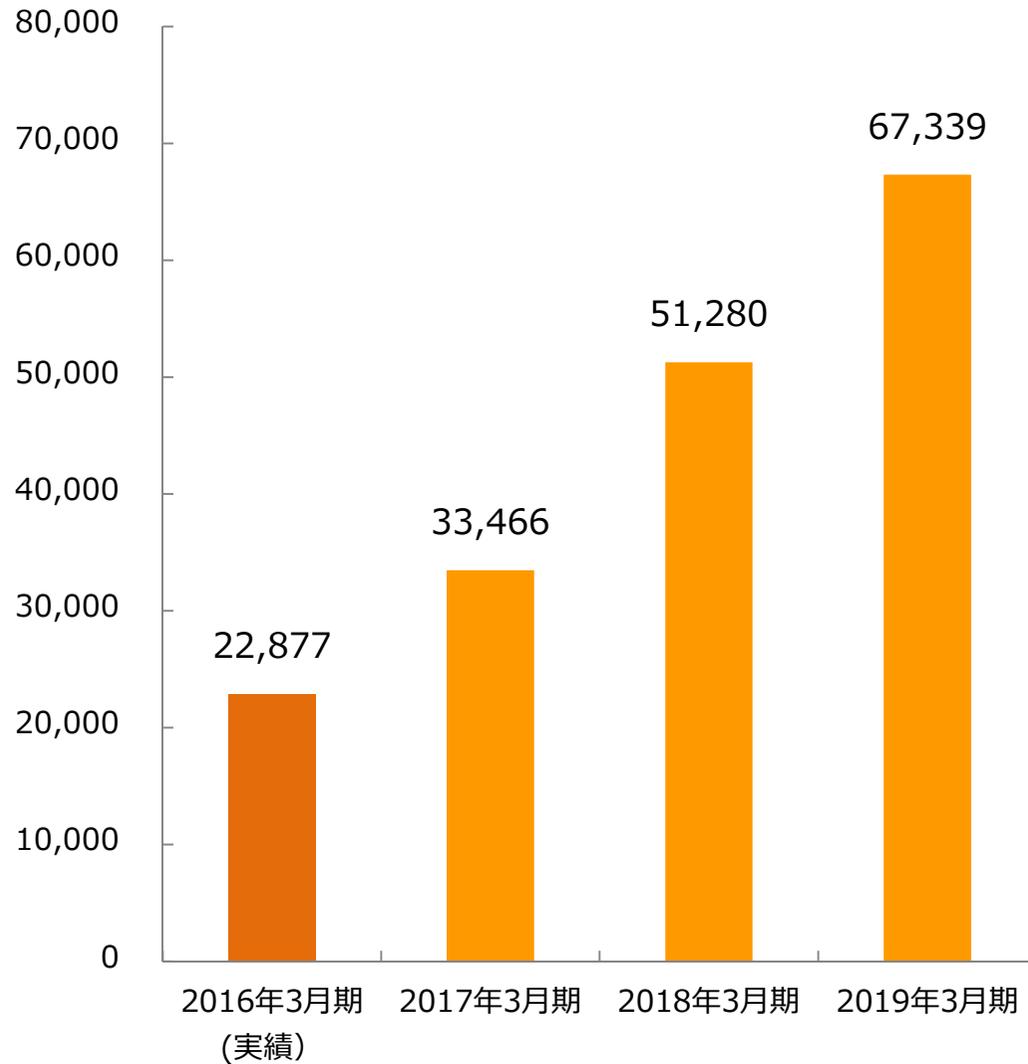
(単位：百万円、下段は売上比)

	2016年3月期 (実績)	2017年3月期 第1四半期 (実績)	2017年3月期		2018年3月期		2019年3月期	
				前年比		前年比		前年比
売上高	22,877 (100.0%)	5,478 (100.0%)	33,466 (100.0%)	+46.2%	51,280 (100.0%)	+53.2%	67,339 (100.0%)	+31.3%
営業利益	1,723 (7.5%)	726 (13.3%)	2,664 (8.0%)	+54.6%	5,311 (10.4%)	+99.4%	7,354 (10.9%)	+38.5%
経常利益	1,614 (7.1%)	697 (12.7%)	2,451 (7.3%)	+51.9%	5,076 (9.9%)	+107.1%	7,085 (10.5%)	+39.6%
当期純利益	1,112 (4.9%)	497 (9.1%)	1,426 (4.3%)	+28.2%	3,336 (6.5%)	+133.9%	4,754 (7.1%)	+42.5%

# 中期経営計画 (2)

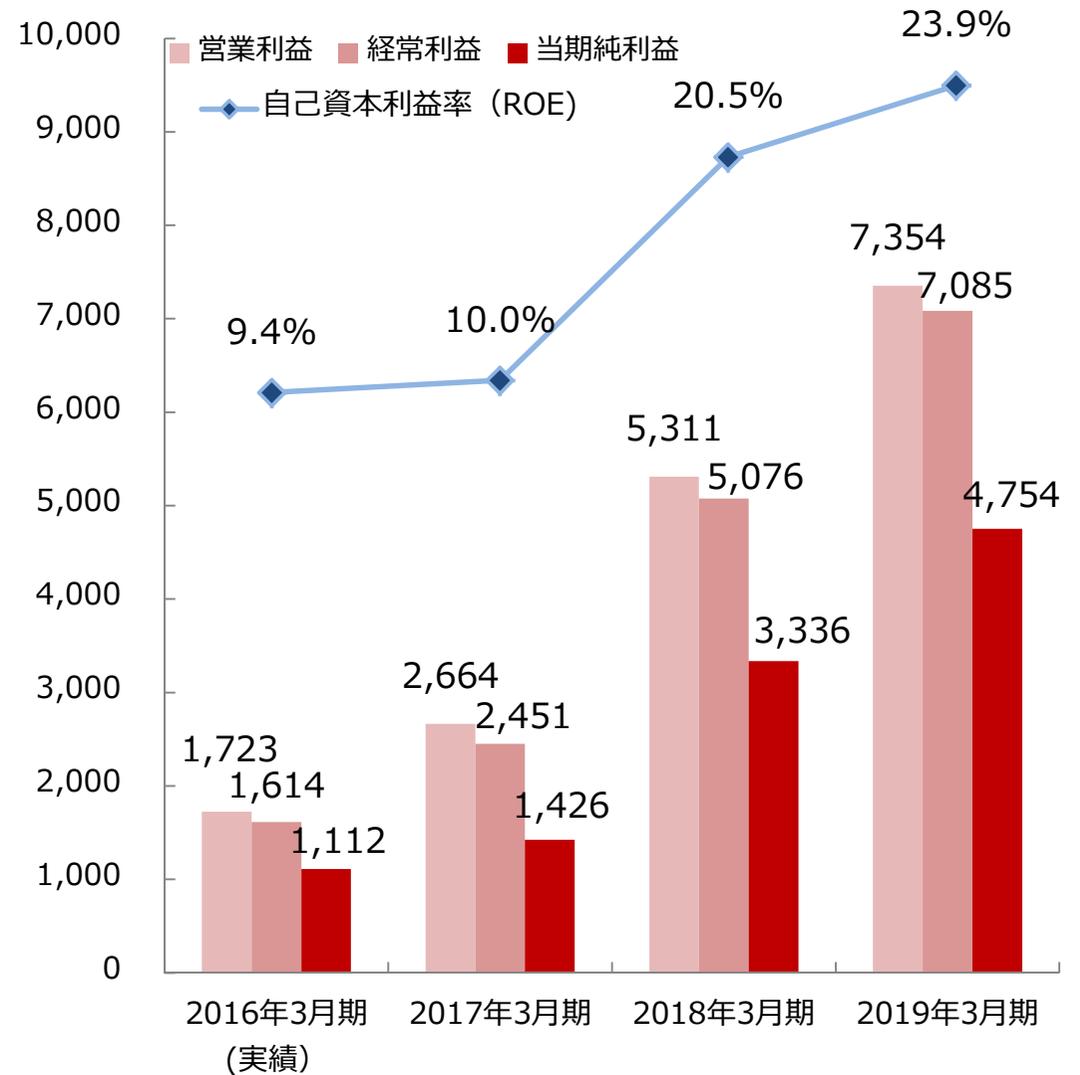
売上高

単位：百万円

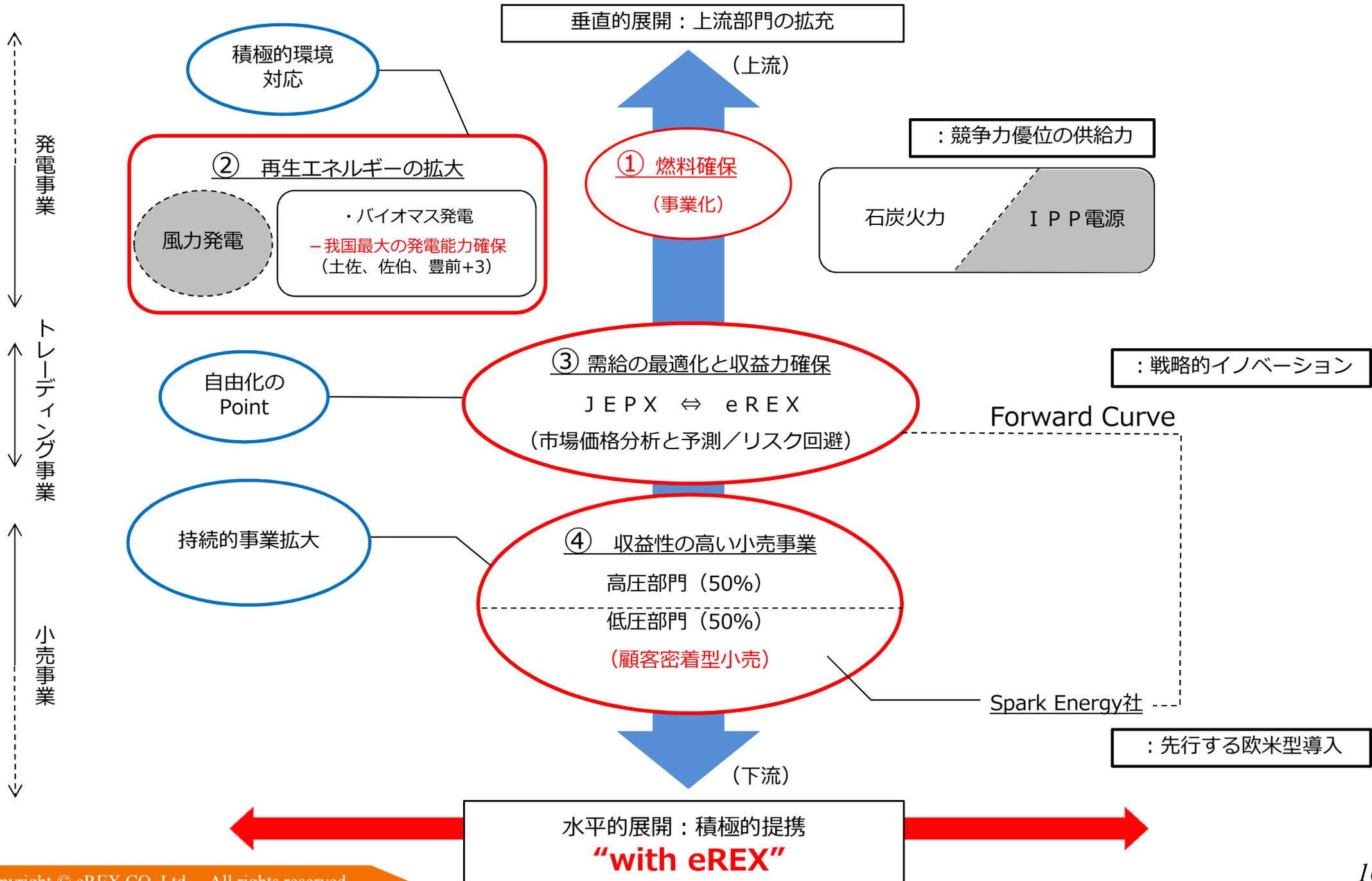


利益

単位：百万円



# 事業の展開と差別化



# バイオマス発電（6計画の概要）

2014年3月期

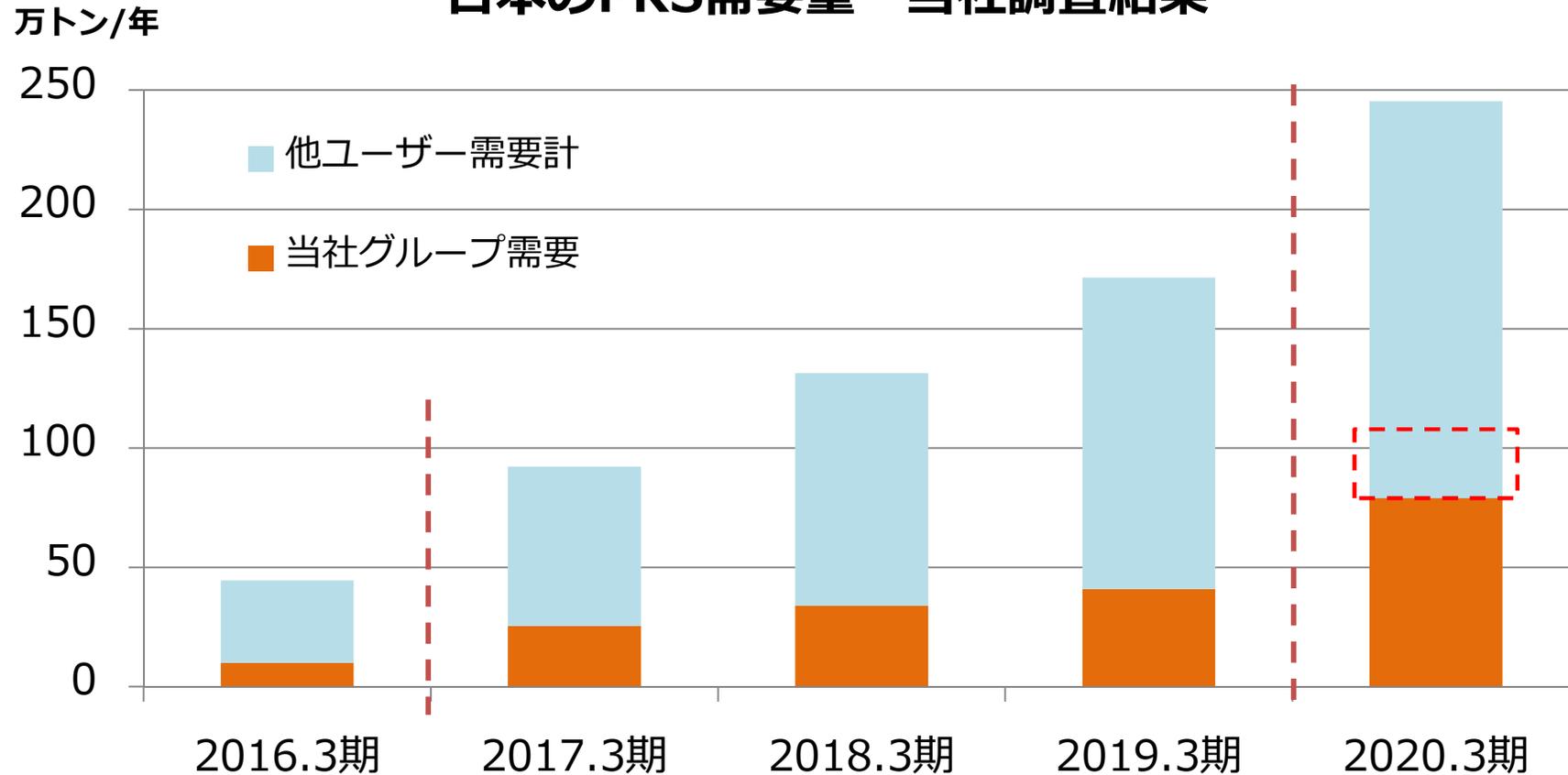
2017年3月期

2020年3月期～

	土佐	佐伯	7月29日開示済 大船渡案件	9月29日開示済 豊前案件	今後検討開始 2案件
発電出力[MW]	20	50	75	75	50～150
発電効率	31%	36%	39%	39%	↑
燃料	PKS	PKS	バイオマス	バイオマス	↑
投資額 [億円]	35	167	235	250	フィージビリティ スタディ中
当社出資比率	100% (全量eREX販売)	70% (全量eREX販売)	35% (全量eREX販売)	65%	↓
当社出資額[億円]	0.1 (済)	34.3 (済)	14.0	45.0	↓
ファイナンス方法	コーポレート ローン	コーポレート ローン	コーポレート ローン	プロジェクト・ ファイナンス	プロジェクト・ ファイナンス (検討中)

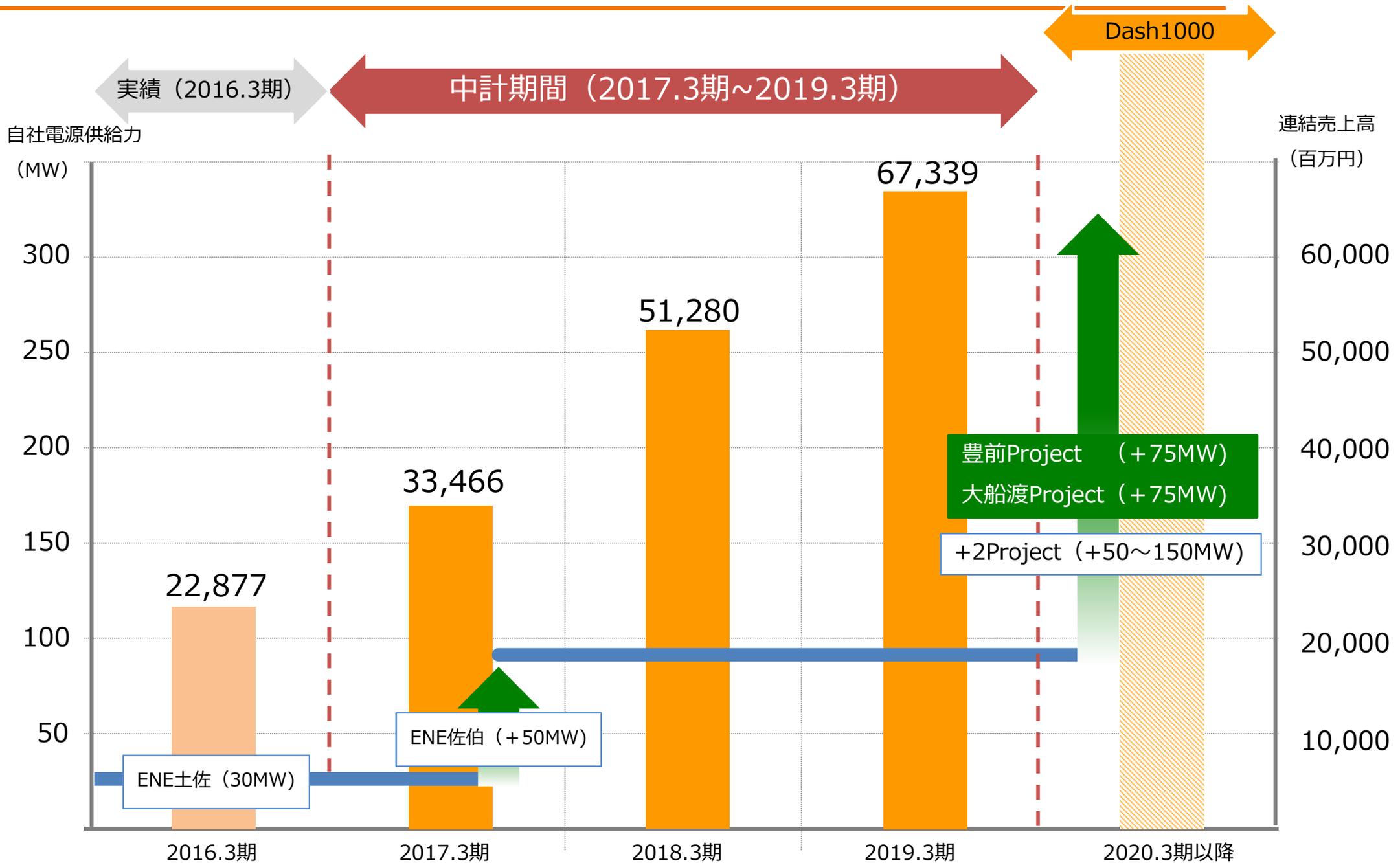
- ①投資回収の予見性が高い。投資基準はIRR10%以上を堅持
- ②燃料の安定供給と価格変動リスク回避（長契・スポット・外販・為替対応）
- ③ファイナンスの工夫により安定した資金繰り  
(プロジェクトファイナンス、出資構成、3年間のコミットメントローン確保)

## 日本のPKS需要量 当社調査結果



- 価格の低減とリスク（価格および数量）の最適なバランスを追求
- 将来的には上流（海外でのストックヤード所有等）や他ユーザー向けの外販事業にも挑戦し、燃料調達の柔軟性向上と新たな収益機会の発掘、リスク低減を図る

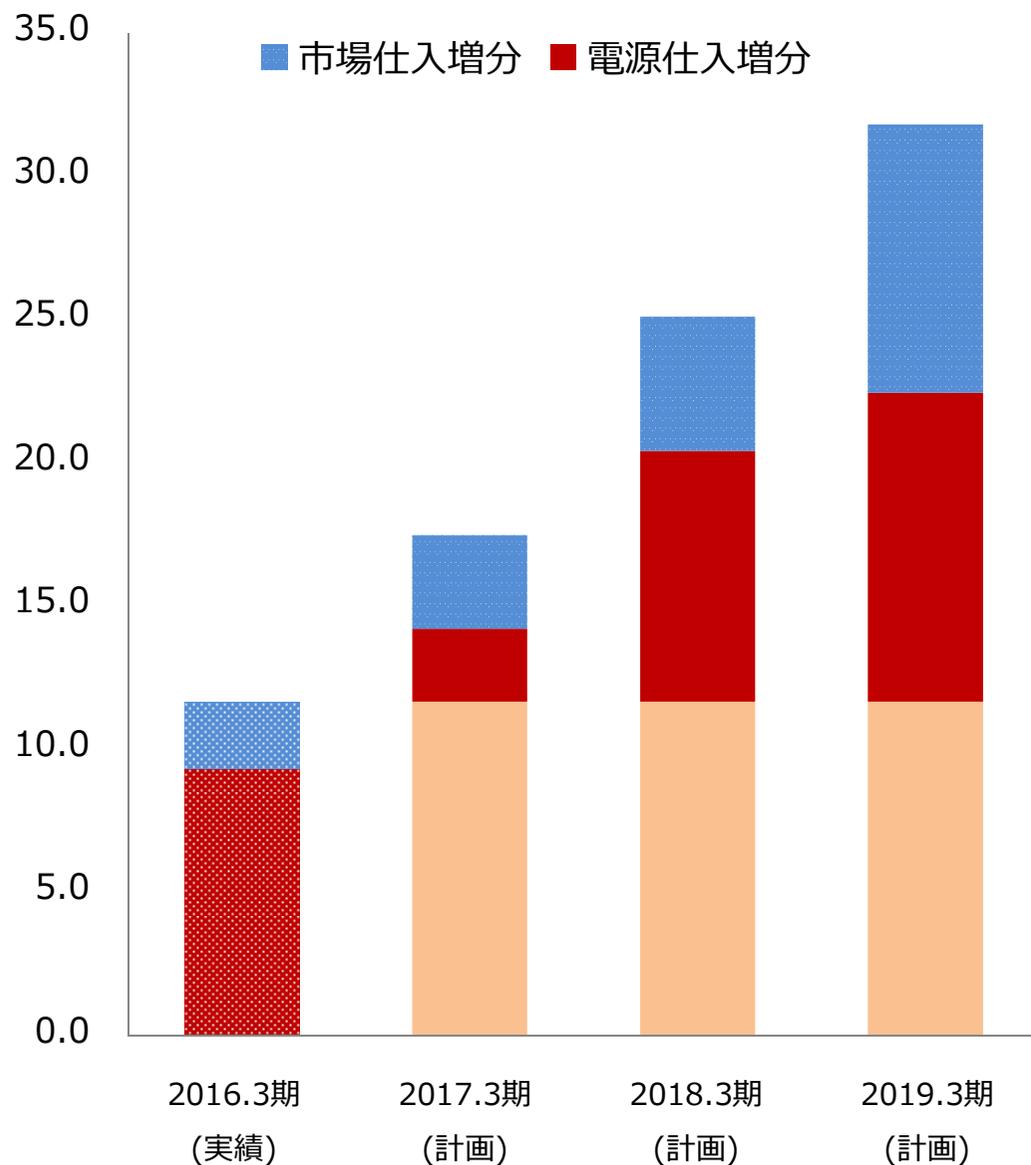
# バイオマス発電事業と小売事業



# 小売販売計画・電源種類別仕入計画

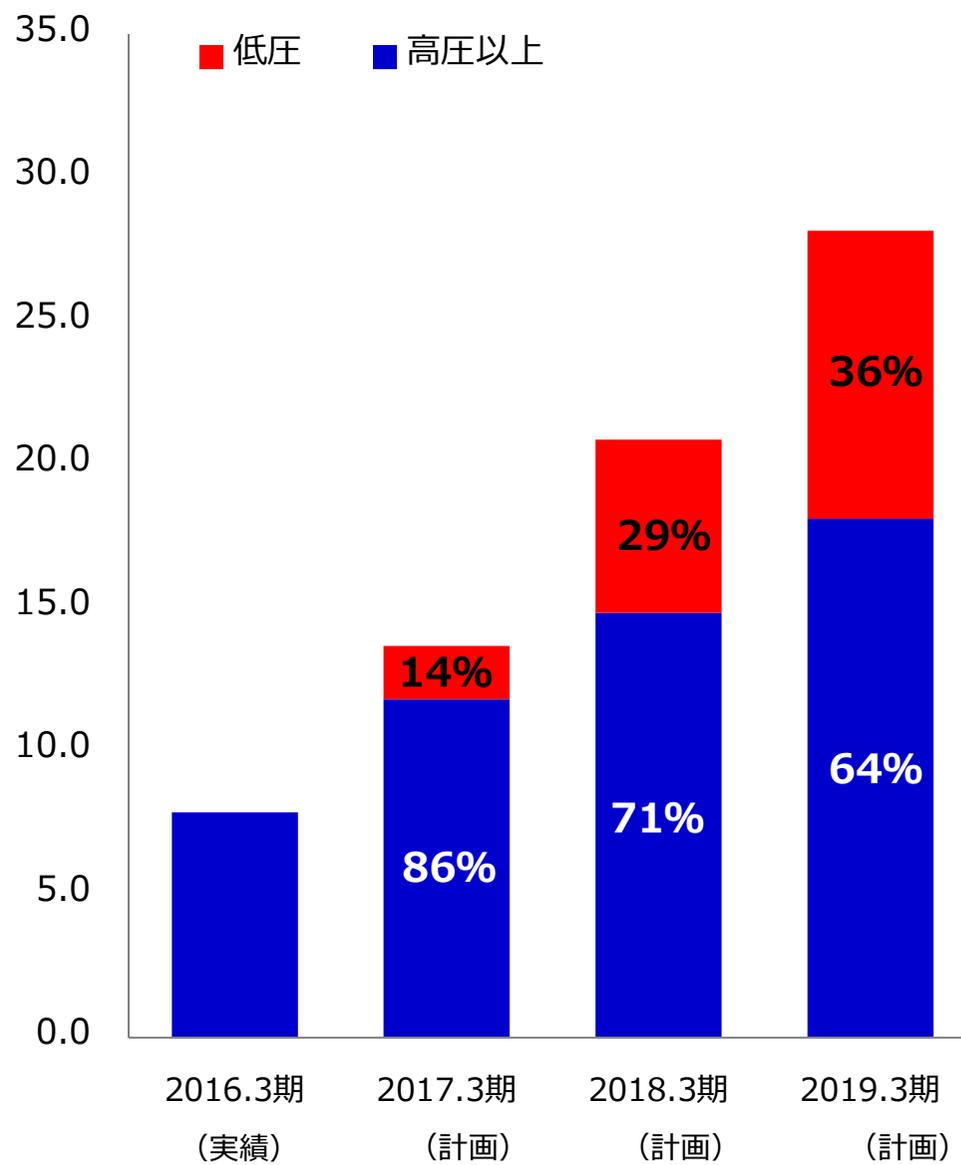
電源種類別仕入量

単位：億kWh/年



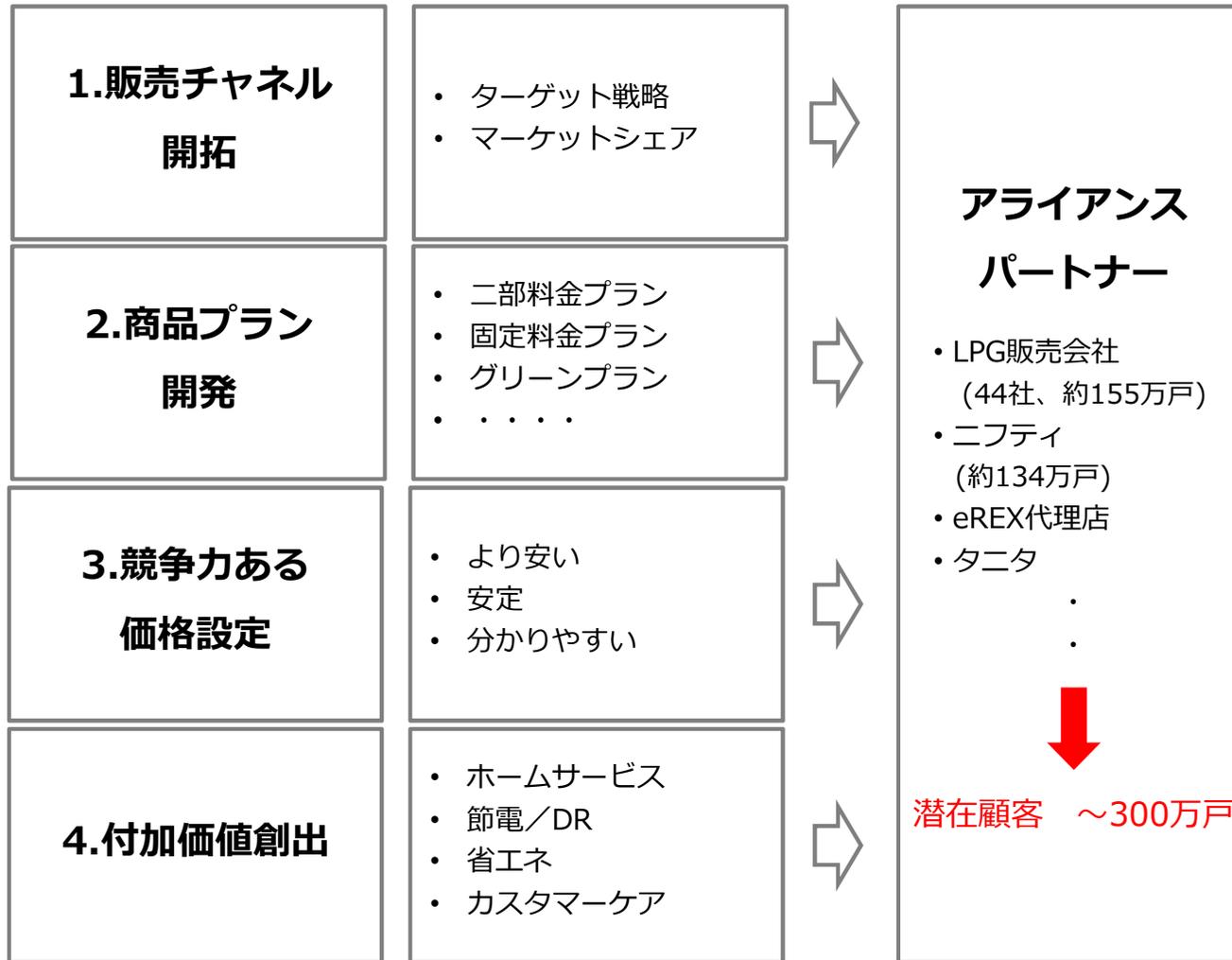
小売販売電力量

単位：億kWh/年



# 低圧小売事業戦略

## ☆顧客密着型アライアンスと垂直的展開を活かしたマーケティング戦略



マーケティング・ブランディングによる差別化

システム投資・M&A・人材育成

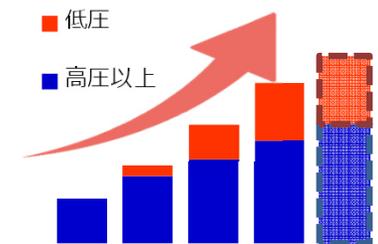
### 目標

(2020年3月期以降)

☆お客さま  
40~50万件

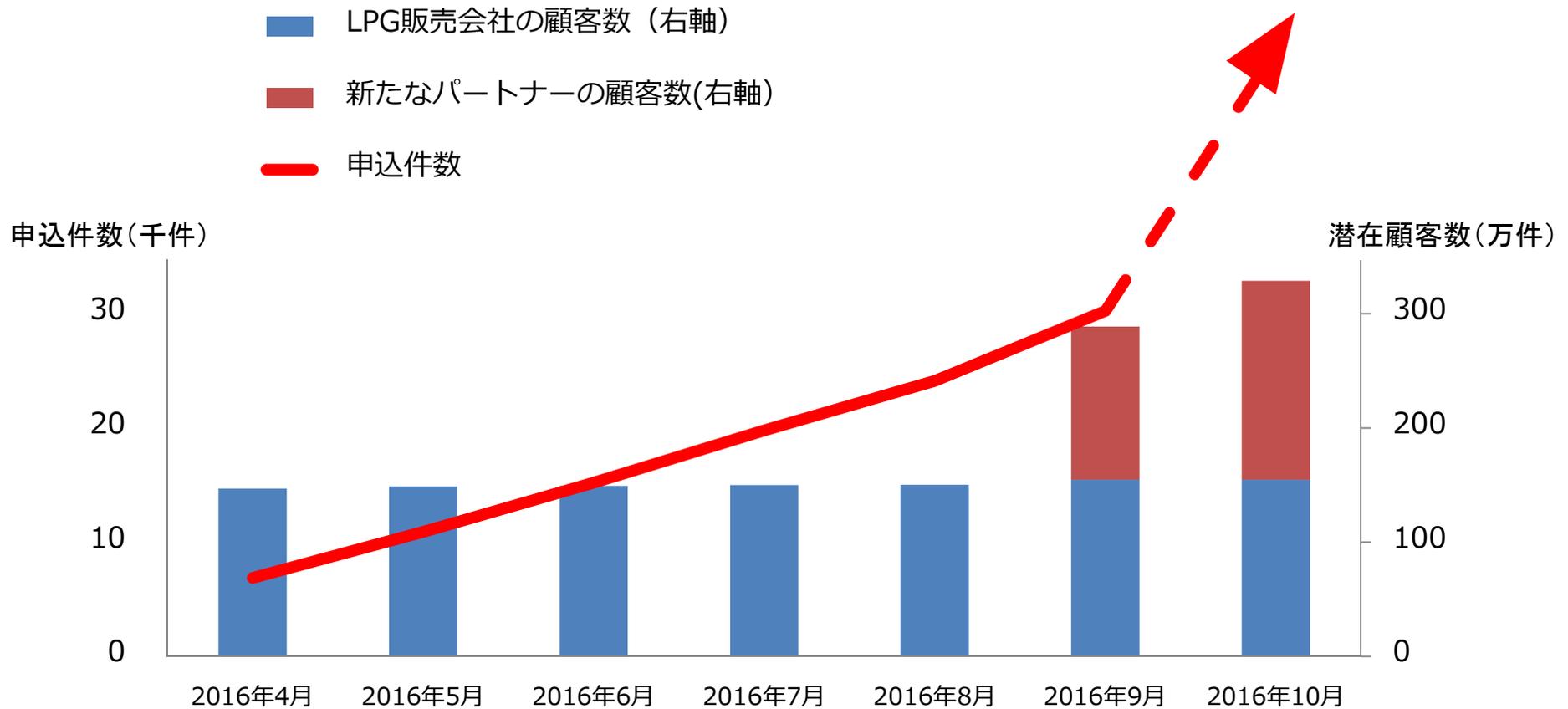


☆売上高  
500億円



# アライアンス効果の進捗

**目標：当期53千件**



- 9月末をもって**提携先の顧客数（潜在顧客）は約300万件に到達**
- LPG販売会社とのアライアンスは着実に成果が出ている
- 9月より、ニフティ社及びタニタ社等の新たなパートナーとの顧客向けキャンペーンを展開
- **アライアンス効果の拡大が期待**される

## 当社グループの特徴① ～強力な代理店網による営業力（高圧分野）～

### 【当社代理店制度の特徴】

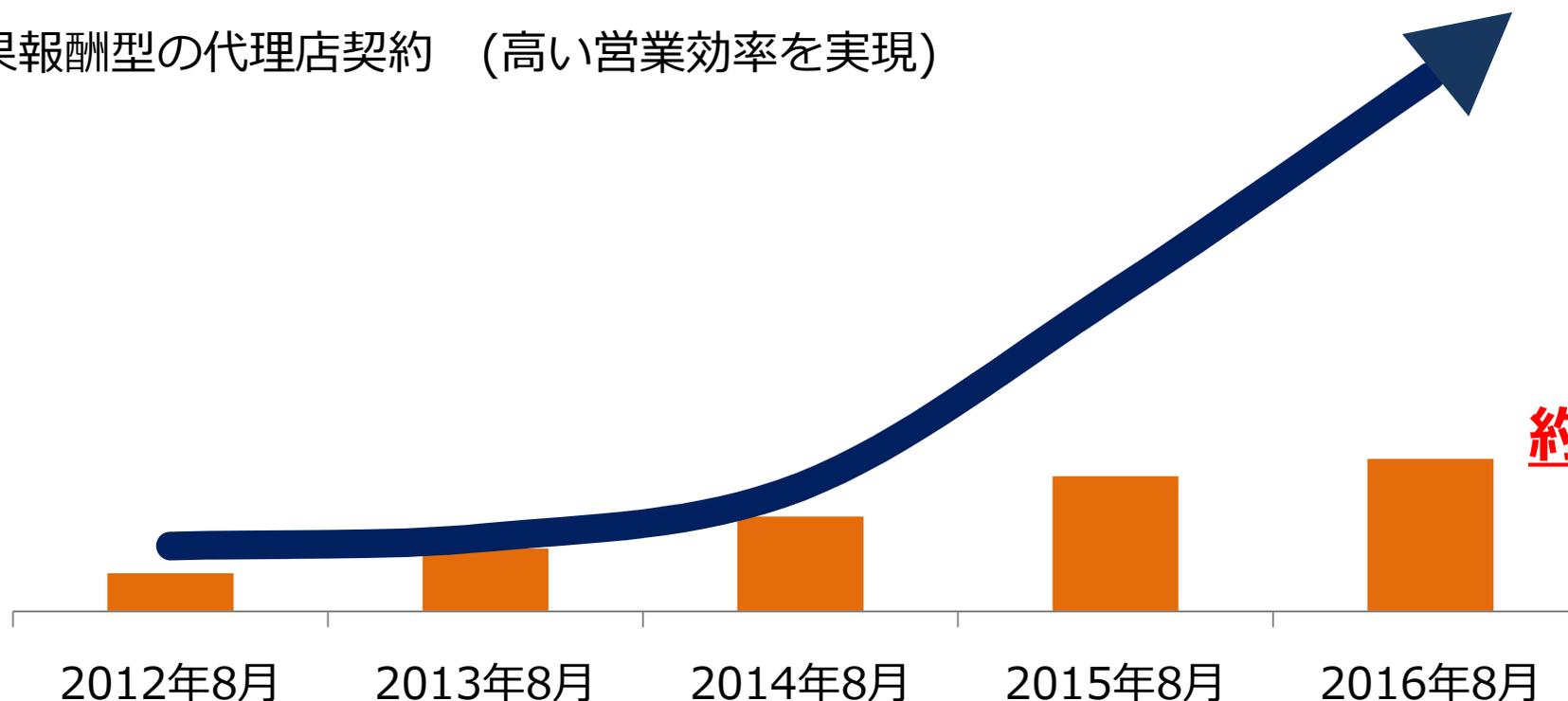
- 郊外型×小規模のお客様に向けた営業（他社がアプローチしにくい顧客を指向）
- 当社収益性に連動した代理店報酬体系を導入（収益性重視志向の動機付け）
- ストック型の代理店報酬体系（代理店各社に安定した収入を提供）
- 成果報酬型の代理店契約（高い営業効率を実現）

**供給先**

**約9,300施設**

**代理店**

**約1,300店**



## 当社グループの特徴① ～パートナー企業様の一例～



全国1,300件以上の  
代理店様



全国のLPG会社様とのコラボ

 **沖縄ガスニューパワー**

沖縄ガスとの合併会社による  
沖縄における電力販売

タニタ × イーレックス

**あるく・おトク・でんき**

健康に目を向けた電力（10/1よりサービス開始）

**@nifty でんき**

Powered by eREX Spark Marketing

通信会社とのコラボ（サービス開始中）

 **デンタルでんき**  
Powered by eREX Spark Marketing

全国の歯科医院向け電力（サービス開始中）

## 当社グループの特徴② ～再生可能エネルギー発電国内第一位に向けたグループ発電所～

### イーレックスニューエナジー（ENE）土佐発電所

所在地	高知県高知市	燃料	PKS(パーム椰子殻)
発電方式	バイオマス発電方式	出力	定格出力 2.95万kW

- 我が国初のPKS発電プラント
- ベース電源としての優位性（固定費分の最小化）
- 中古資産を活用する事で初期投資費用を低減



▲ 土佐発電所  
(2013年より運転中)

### イーレックスニューエナジー佐伯（ENE佐伯） 佐伯発電所

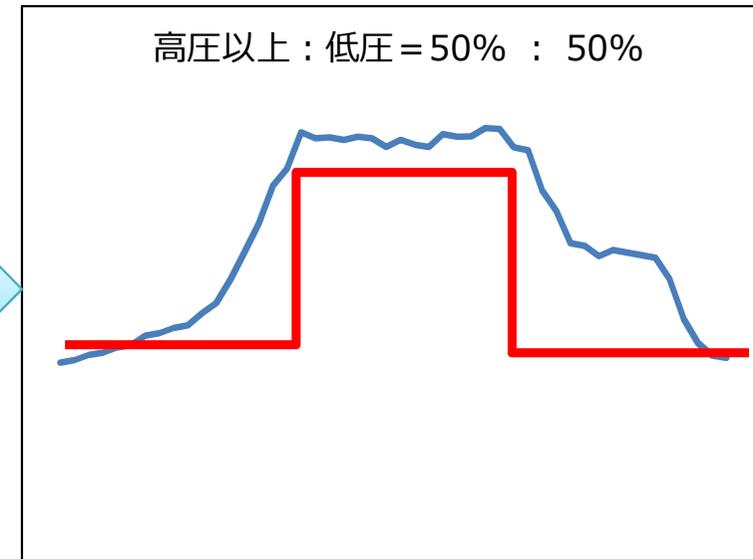
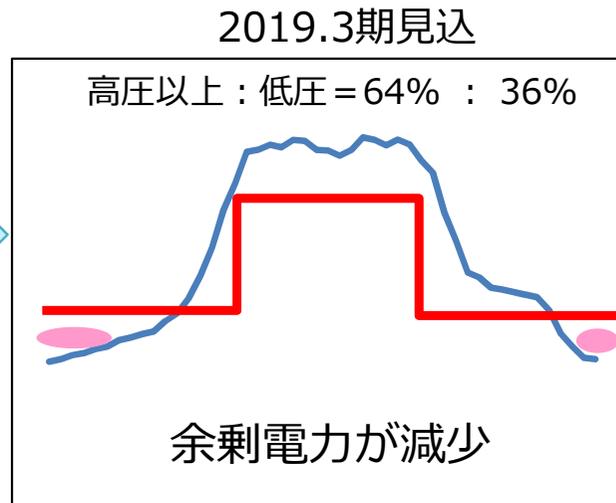
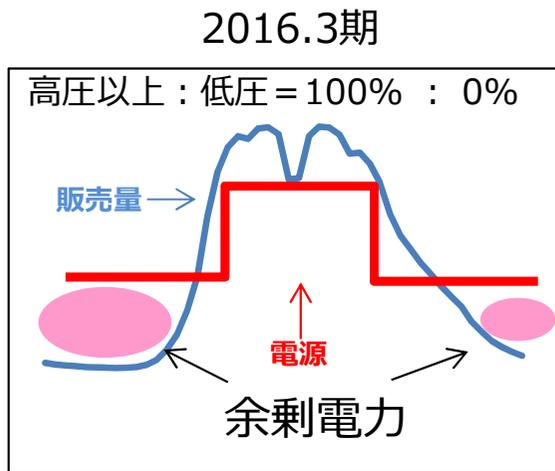
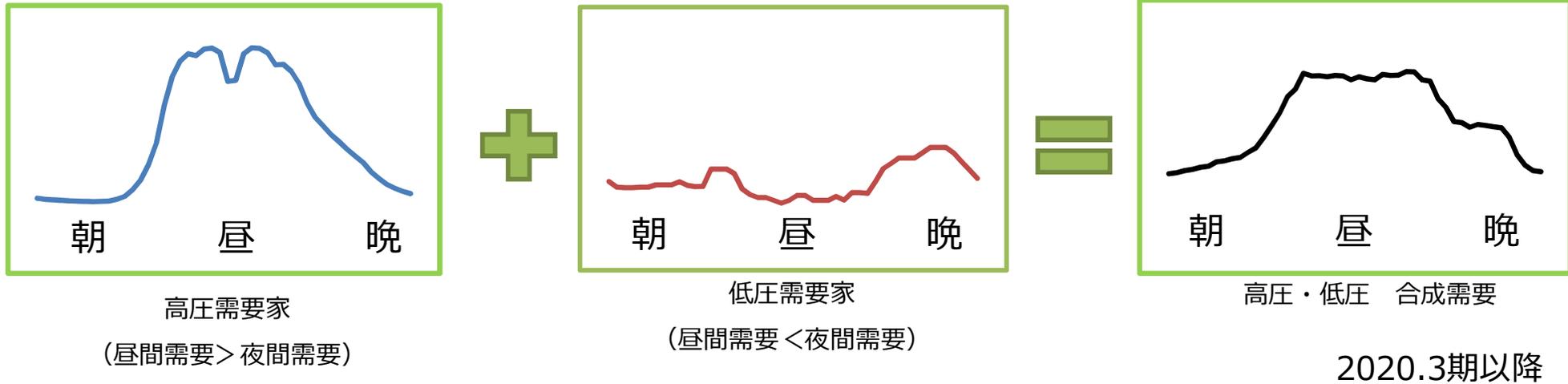
所在地	大分県佐伯市	燃料	PKS(パーム椰子殻)
発電方式	バイオマス発電方式	出力	定格出力5万kW

- 本年11月の商業運転開始に向けて試運転を実施中
- 当初計画通りのスケジュールにて進捗

▼ 建設中の佐伯発電所（本年8月末時点）



# 顧客ポートフォリオの最適化

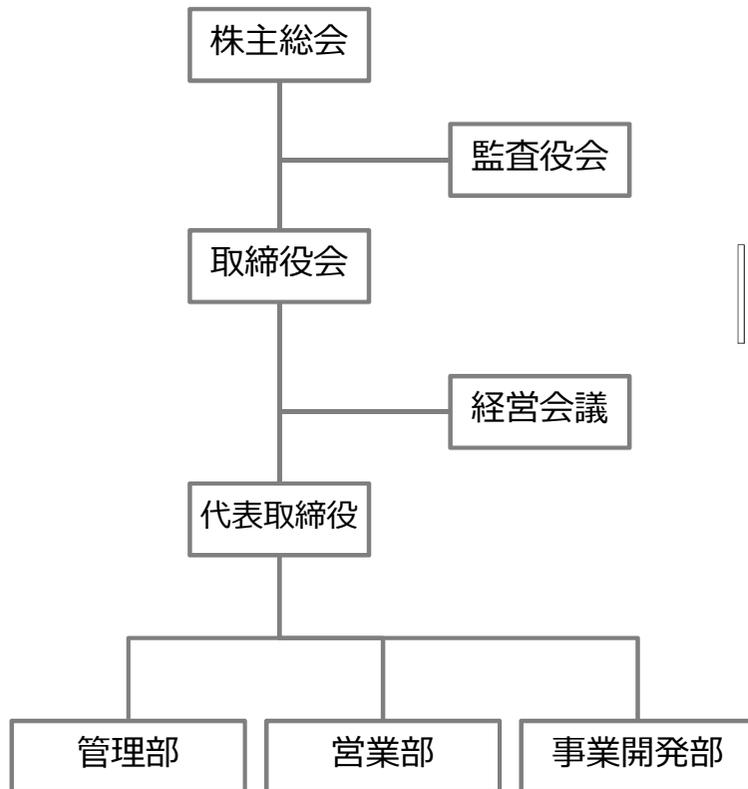


“余剰電力の収益化”と“供給力の最適化”を実現

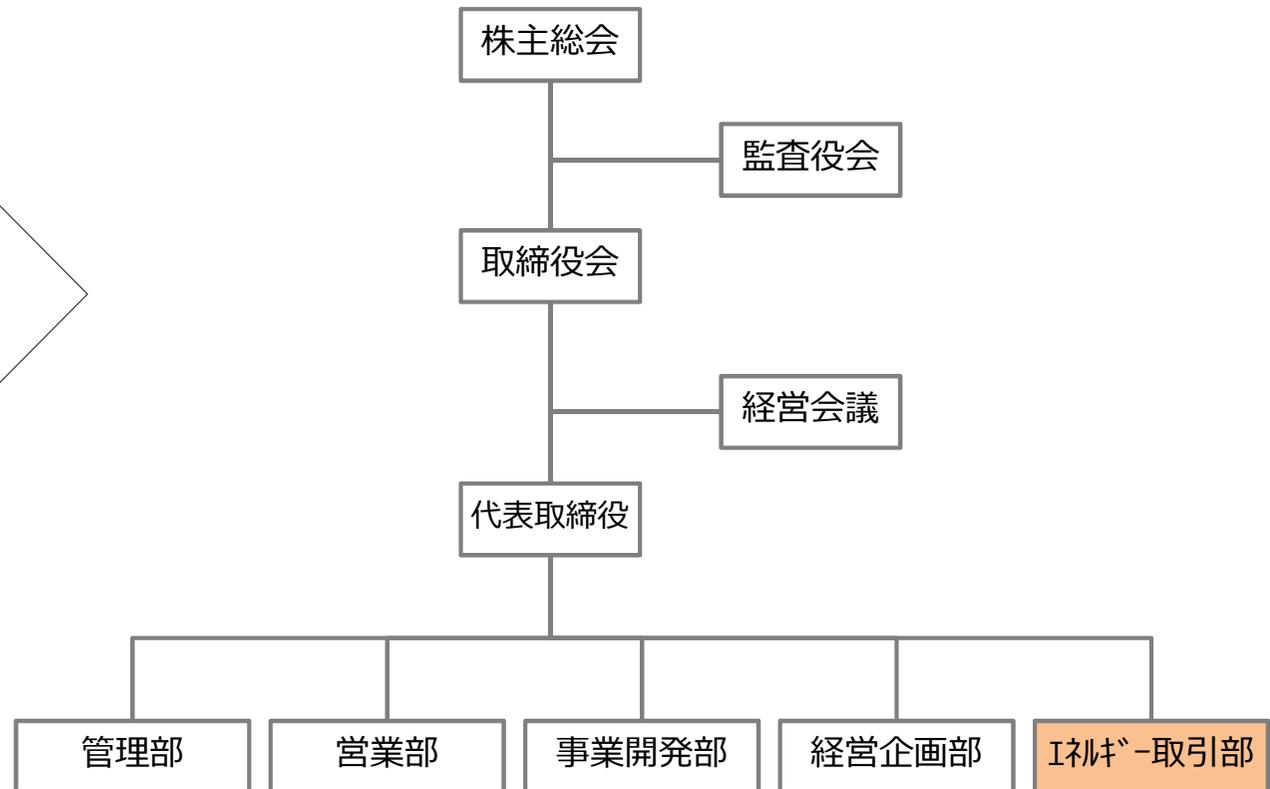
# 組織改編

- ・ 市場環境及び事業構造の急速な変化に対応するため、事業運営体制の再構築が必須
- ・ 各事業における責任体制を明確にし、意思決定の迅速化を図るために、組織変更を実施
- ・ 平成28年10月1日より5部体制へ移行

【平成28年5月時点】



【平成28年10月1日予定】



---

## **IV. 第1四半期決算概要**

## 2017年3月期第1四半期 総括

売上高 **5,478 百万円** (前期比 12.1%増)

営業利益 **726百万円** (前期比 315.6%増)

- **高圧分野**の顧客数は継続して**伸長** (約8,000施設 [前期末] →約8,600施設)
- 4月から始まった**低圧分野も伸長** (0施設 [前期末] →約11,300施設)
- **佐伯発電所**の建設工事、土佐発電所の操業は共に**計画通り進捗**
- **卸電力市場(外部環境)の価格変動に迅速に対応 (利益率向上)**
- ◆ 年度計画を上回る、**順調なスタート**となる

# 連結損益計算書の概要

(単位：百万円、下段は構成比)

	2016年3月期 第1四半期 (前期実績)	2017年3月期 第1四半期 (当期実績)		
		実績	増減率	備考
			通期進捗率	
売上高	4,887 (100.0%)	5,478 (100.0%)	+12.1% <b>16.4%</b>	・高圧分野/低圧分野共に伸長し、単価が低い卸売数量の削減が奏功
営業利益	174 (3.6%)	726 (13.3%)	+315.6% <b>27.3%</b>	・仕入構成比を見直し卸電力取引所からの仕入数量を増やし、売上原価を大幅に低減
経常利益	144 (2.9%)	697 (12.7%)	+383.8% <b>28.4%</b>	—
親会社株主に 帰属する 当期純利益	100 (2.0%)	497 (9.1%)	+393.6% <b>34.9%</b>	・営業利益の大幅な増加を主要因として前年同期比400%近い成長となる

# 貸借対照表の概要

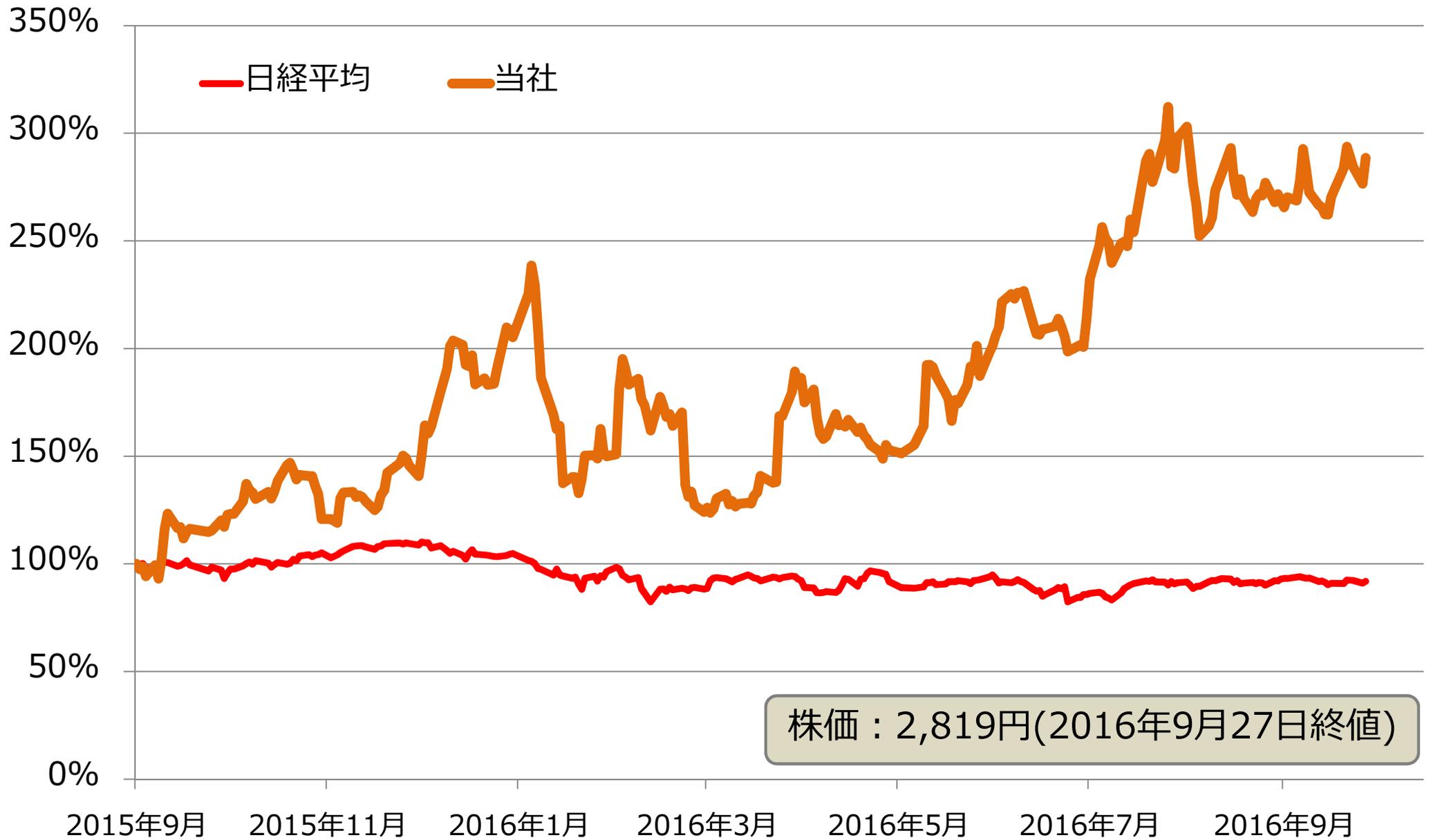
(単位：百万円、下段は構成比)

		2016年 3月期末	2017年3月期 第1四半期末		
			実績	増減額	主な増減要因
資産	流動資産	13,406 (49.3%)	10,485 (42.5%)	▲2,920	・シンジケートローンの返済により現金及び預金が▲3,000百万円 ・その他+80百万円
	固定資産	13,759 (50.6%)	14,176 (57.4%)	+417	・佐伯発電所の建設工事費用として+360百万円 ・その他+57百万円
	繰延資産	36 (0.1%)	33 (0.1%)	▲3	・子会社設立、増資に伴う株式交付費の償却の進展
資産合計		27,202 (100.0%)	24,694 (100.0%)	▲2,508	—
負債	流動負債	3,096 (11.3%)	3,038 (12.3%)	▲58	・未払い法人税等が▲149百万円、従業員及び役員賞与引当金▲119百万円、買掛金▲93百万円 ・その他+319百万円
	固定負債	9,373 (34.5%)	6,670 (27.1%)	▲2,733	・シンジケートローンの返済により長期借入金が▲2,747百万円 ・その他+14百万円
	負債合計	12,469 (45.8%)	9,708 (39.3%)	▲2,761	—
純資産合計		14,732 (54.2%)	14,986 (60.8%)	+254	・ストックオプションの権利行使に伴い、資本金及び資本剰余金が計+191百万円 ・利益剰余金が+90百万円、非支配株主持分が▲27百万円
負債・純資産合計		27,202 (100.0%)	24,649 (100.0%)	▲2,553	—

---

## V. 参考資料

# 株価騰落率比較



株価：2,819円(2016年9月27日終値)

※ 平成27年9月1日終値 (当社：977円、 日経平均：18,165.69円) を100%として

# 配当方針

## 配当政策の基本方針

- ・当社は成長過程にあり、強固な財務基盤の強化を図るため内部留保も意識した配当政策を行います。
- ・2015年3月期については、**普通配10円+マザーズ市場上場記念配10円の計20円**配当を実施
- ・2016年3月期については、**普通配20円（前期比+10円）+一部上場記念配5円の計25円**配当を実施

